

□ 書 評 □

「末期癌患者の診療マニュアル 痛みの対策と症状のコントロール 第2版」

RG Twycross Therapeutics in Terminal Cancer
SA Lack

訳 武田文和

本書の底流にあるものは、残り少ない生を生きる癌患者に対する著者のいとおしみといつくしみの心であり、癌患者の医療における全人性の追及の書であると言えよう。本書の初版がわが国の癌患者の終末期医療に果たした役割は、麻薬使用のタブー視からの解放を始めとして計り知れないものがある。

今回の改訂版は初版から6年経っていることもあり、かなり書き改められている。特にオピオイド鎮痛薬の分類のしかたや、それに対する反応性による痛みの分類などが新しくされ、モルヒネ徐放錠が各項で追記されている。また、日常よく遭遇する

リンパ浮腫が独立した項目で扱われている。日頃意に留めていなかった、または如何ともしがたいと半ばあきらめていた患者の苦痛や苦悩への対応について、実際の知恵が随所に散りばめられている。肉体的のみならず精神的な苦痛、苦悩をいかに和らげ、患者が質の高い余生を送るのをいかに援助していくかについての、長年の研究と経験とに裏打ちされた腐心の内容である。

加えて、訳者の本書への情熱には並々なぬものが感じられ、この翻訳の存在意義を極めて高いものにしてしている。平易な訳はもちろんであるが、例えば具体的に日本での商品名

や、日本人向けの薬剤使用量についての訳者の豊富な経験に基づいた心配りがなされていて、わが国での実地診療に即役立つものとなっている。またこの版では、麻薬という言葉をやめ、オピオイドないしはオピオイド鎮痛薬という言葉が使われている。わずかなことかもしれないが、この用語が麻薬という言葉のもつイメージからの一層の解放に大きく寄与するものと期待している。

最近、癌患者のケアに関する書が多くみられるようになり、それだけ関心が高くなってきている証拠で喜ばしいことである。本書はまさしくその頂点に立つ存在である。癌患者診療およびケアのための医師・看護婦の座右の書としては是非お薦めしたい。

(桜町病院・内科)
松井 征男

●A5変型 266頁 1991年
定価 2,266円(税込) 送料 300円

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)